

# 港湾整備事業

## 〈160年の歴史を持つ函館港〉

令和元年に開港160周年を迎えた重要港湾の函館港は、横浜や長崎とともに我が国初の国際貿易港として、重要な役割を果たしてきました。

また、管内の港湾は、渡島・檜山地域の物流拠点として重要な役割を担っており、特に函館と青森を結ぶ青函航路は、航路別では全国3位の取扱貨物量があり、北海道と本州間のフェリー貨物輸送の約3割を占めるなど、北海道産の新鮮な食料品等を移出する重要な航路となっています。

### 1 重要港湾 函館港

函館港は、北海道と本州や世界を結び、物流と観光の両面で重要な役割を担っています。また、多様な海事関係の官公署や研究機関が立地しており、調査船や作業船の基地港として利用されています。

令和6年度は、学術研究機関が集積した『国際水産・海洋総合センター』と調査船等の係留の一体化を目指し、水産・海洋研究ゾーン形成に向けた弁天地区の整備を進めるとともに国土強靱化の推進及び老朽化した施設の機能回復のため、防波堤や臨港道路の整備を進めます。

### 2 地方港湾

地方港湾奥尻港ほか4港では、国土強靱化の推進とともに、老朽化した施設の機能回復、港内静穏度の確保等、港湾の効率的な利用を図るため、物揚場、防波堤、護岸等の整備を進めます。

### 港湾整備事業の概要

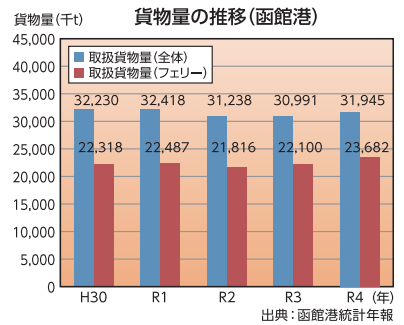
港湾名	地区名	事業の概要
重要港湾	函館港	弁天地区 水深5m岸壁改良
	函館港	本港地区 西防波堤改良、道路改良
地方港湾	森港	本港地区 道路東
	榎法華港	本港地区 東防波護岸改良
	江差港	本港地区 水深5m北岸壁改良
	奥尻港	本港地区 護岸消波、水深3.0m物揚場北
	瀬棚港	本港地区 東外防波堤



函館港 本港地区



函館港 若松ふ頭



# 空港整備事業

## 〈国際観光都市函館の空の玄関口～函館空港【拠点空港(国管理空港)】〉

※令和6年4月1日現在

函館空港は函館市内の中心部から東へ約10kmと好立地に位置し、国際線1路線(2社)、国内線6路線(3社)の計7路線を有する道南の空の玄関口となっています。

旅客数は北海道内で新千歳空港に次いで2番目に多い空港で、令和元年の国際線旅客数は、平成24年の約2.5倍に増加しています。なお、令和3年3月1日から北海道エアポート(株)により、空港運営事業(運航情報、保安防災、施設管理、灯火電気など)を開始しています

### 浸水対策

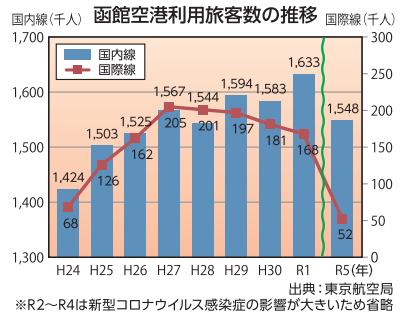
函館空港では、豪雨による空港施設の浸水を防止するため、排水機能強化による浸水対策を行います。

### 空港整備事業の概要

空港種別	空港名	事業の概要
国管理空港	函館空港	浸水対策



国管理空港 函館空港



### ■ サイクルツーリズム

世界水準のサイクルツーリズム環境の実現に向け、令和6年2月に道内10番目のルートとして追加された「どうなん海道サイクルルート(道南サイクルツーリズム推進協議会)」等、地域と連携し、安全で快適な自転車走行環境の改善やサイクリストの受入環境の充実、情報発信および地域独自の取組など、官民一体となって推進します。



津軽海峡・日本海・太平洋を8の字で結ぶルートに奥尻島を加えた全長約459kmのサイクルルート



日本海を眺望できるサイクルルート(上ノ国町小砂子)

### ■ シーニックバイウェイ北海道

ドライブ観光を推進する「シーニックバイウェイ北海道」では、地域が主体となり、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある観光空間づくりを進めています。管内では「函館・大沼・噴火湾ルート」と「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」の2つが指定ルートとなっており、地域の魅力を高める活動が行われています。



シーニックdeナイト(令和6年度 活動20周年)



殿様街道探訪ウォーク(福島町)

Scenic Byway HOKKAIDO